

日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万6000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2021年12月21日

元気が出る
みんなの
取り組みを
ご紹介

普及拡大 ＊ 第56回全国研を終えて

大阪に新たな
ヒーロー誕生
か！

大阪の新たな取り組み「ほいく誌のPR動画」を企画！

全国研で愛知学童保育連絡協議会が作られたほいく誌のPR動画を見ました。「シドウインレッド」や「イッペンヨンデミヤ」のコミカルな内容に、マスクをしながら一人で思わずクスクスと笑ってしまいました。

見終わった後に、「ぜひもっとたくさんの人に見てもらいたい」と思い、後日、愛知からの承諾をいただき、堺市でも動画を紹介させていただくことになりました。

そして、大阪でも新たな取り組みとして、ほいく誌のPR動画を企画しています。

どんな内容になるかは楽しみです。動画を見て一人でも多くの人に、ほいく誌のことを知ってもらい、「一度読んでみようかな？」と思ってもらえたらうれしいです。

大阪府
堺市
の
取り組み

働きながら子育てする人々の壮大な運動のもとに今がある！

NPO所沢市学童クラブの会職員である私は、1959年生まれ。東京都下保谷町（現西東京市）の「ひばりが丘団地」という、100棟を優に超える全国初のマンモス団地が誕生したのと同じ年に生まれ、その団地で育った私の実体験と石原剛志先生が記念講演でお話しされた学童保育の「歴史」がオーバーラップしました。

全国研が終わり、石原先生が『日本の学童ほいく』に連載した「講座 学童保育を求め、つづけてきた人々 学童保育の歴史から学ぶ」（2017年10号～2018年3月号）をあらためて読むと、葛飾区の青戸学童保育会の様子など、自分の育った環境や母の話とよく似ていました。

全国各地で本当に多くの、働きながら子育てをする環境の整備を求めつづけた人々の、壮大な運動のもとに今があることを考えると、感動すら覚えます。会の事務所には、歴史的に貴重な文献がそろっています。所沢の仲間たちに「ちょっと見てみませんか？」と呼びかけています。

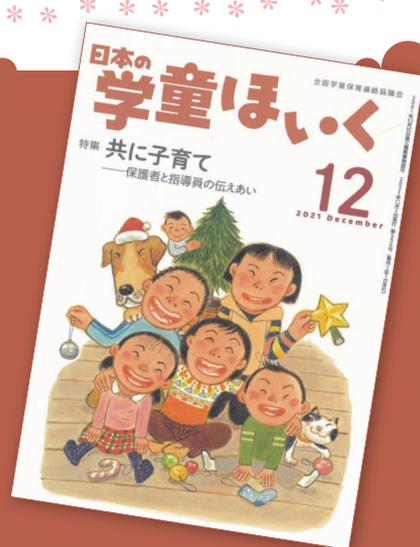
埼玉県
所沢市
の
取り組み

日本の学童ほいく12月号

特集 共に子育て

——保護者と指導員の伝えあい

今回の特集では、保護者と指導員が、子どもの様子を伝えあう関係を築くことの大切さをあらためてたしかめあうとともに、コロナ禍のいま、各学童保育で「伝えあい」に関わって工夫していること、努力していることを交流します。



日本の学童ほいく

普及拡大 ニュース

みんなで読もう目標 3万6000部

2021年12月21日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

神奈川県横須賀市 ● 保護者から

2021年6月号の特集「学童保育指導員の仕事」に掲載された鷲谷里枝さんの記事「指導員の願い、思いを支えるために」を読みました。

なかでも、「保護者としてできることを……」と記されていた部分に考えさせられました。

子どもたちのために安心・安全を守りつつ保育をつづけてくれている指導員さんたちのために、私たち保護者ができること。それは、少しでも働きやすい環境になるように、日頃から、指導員さんたちが私たちにさまざまな話や相談ができる関係性をつくること。そして、学童保育連絡協議会を通じて、市や県、そして国へ、指導員の処遇改善を求める声を届けることに、もっと積極的に携わっていくことも、私たちにできることの一つかなと思いました。

また、日々の保育に対する感謝の気持ちを忘れずに、保護者がしっかりと「ありがとう」を伝えることも大切だと思いました。

『日本の学童ほいく』2021年12月号
「読者のひろば」より

長崎県長与町 ● 保護者から

「新型コロナウイルス感染症」拡大の当初は、学童保育でも変更・中止・延期になったことが多くあると思いますが、コロナ禍が長期化するなか、いまだに「安全」と「子どもにとって必要なこと」の両立を考えてできることを模索し、可能な範囲で実施している状況だと思います。

2021年9月号の特集「学童保育の生活づくりを考える」で強く印象に残ったのは、長瀬美子先生が記されていた、子どもは多様な経験のなかで成長していくが、「なによりも、友達と一緒に過ごし、たくさんあそんで子どもは育ちます」。「毎日の生活」や子どもが「安心して過ごせる場」など、普段の生活の積み重ねが大切であるという点でした。

「学童保育の生活で大切にしたいことはなにか？」をあらためて考える機会になったと思います。

私自身、コロナ禍が長期化しなければ、学童保育の生活で大切にしたいことをあらためて考えなおす機会は少なかったと思います。これからも、指導員の先生方と保護者と共に話しあい、よりよい学童保育をつくっていきたいと思います。

『日本の学童ほいく』2021年12月号
「読者のひろば」より

私は、指導員になってすぐに『日本の学童ほいく』をはじめて手にしました。当時、旧大宮市では、ほとんどの指導員と保護者が購読をしていました。学童保育にほいく誌が届くと、布で作られたポストにおたよりと一緒にに入れて、各世帯に配りました。ほいく誌をポストに入れておくと、子どもたちが読んだり、保護者の中には、その場でパラパラと読む方もおられました。そして、地域の指導員が書いたものや連絡協議会のことが載っていると、「今月のほいく誌の記事、読んだ？」と指導員に伝えてくれることもしばしばありました。みんながほいく誌を大事にしていることが新人の私にも伝わりました。その数年後に、私の保育実践が掲載される機会があり、その際には、保護者が大喜びしてくれたことを覚えています。時代は変わりましたが、今も私にとって、ほいく誌は大事なものです。特集や講座から新しい気づきがあり、仕事に行きづまったときに仲間の実践から元気とヒントをもらいながら、仕事の確かめをしています。今は、ほいく誌を入れるポストはありませんが、ほいく誌を保護者にお渡しする際に、おすすめの記事に付箋をつけて、メッセージを届けています。忙しい保護者にも手にとって読んでもらいたいという思いからです。そして、ほいく誌を大事なものと思ってもらえたらという願いも届けています。

私と「ほいく誌」

全国連協役員リレー執筆・
今月は埼玉の佐藤正美さん